

四肢障害者における自分との戦い —REBT(理性感情行動療法)による自叙伝の分析を通して—

岡 茂

Inner conflict among limbs-disabled persons—Autobiographical analysis approached by Rational—Emotive Behavior Therapy (REBT)—

Shigeru OKA

要旨:

本研究は、疾病や障害をもつ人々が困難を抱えながらもより幸せに、よりよく生きるとはどういうことか、またそれを可能にする条件は何なのかという普遍的な問題に対して、一つの手掛かりと解答を提示し、展望を切り拓くことを目的とした。四肢障害という苛酷な運命を背負い、明治・大正・昭和の時代を生き抜いた人物の自叙伝をREBT(理性感情行動療法)の視点から分析し、その特徴を明らかにした。その生き難さを克服した中核にビリーフがあり、人生の初期から一貫して健康なビリーフを保持していることは、誰でも困難を生き抜くビリーフを持ち得ることを示している。人は生きている限り自分の内部および外部と戦うのが必然であり、人間形成の一翼を担っている。極限状況での困難と戦った先人の跡を辿ることは、解決の早道となるであろう。

key words : 四肢障害者、自分との戦い、REBT(理性感情行動療法)、自叙伝、ビリーフ

I はじめに

本研究は、疾病や障害をもつ人々が困難を抱えながらもより幸せに、よりよく生きるとはどういうことか、またそれを可能にする条件は何なのかという普遍的な問題に対して、一つの手掛かりと解答を提示し、展望を切り拓くことを目的とした。

疾病または障害を持つか否かに拘らず、人は生きている限り自分の内部および外部と戦うのが必然であり、それが自分を鍛えるということであり、人間形成の一環ということでもある。自分の内部・外部と戦うことのみが人間形成なのではなく、人間形成の重要な一翼を担うという意味である。

辻村(1993)は次のように述べている。「どんな人間でも困難にぶつかるときがある。そのような場合、極限状況での困難と戦った先人の跡を辿ることが、何よりも解

決の早道となるだろう。それらの経験を知ると、勇気が湧いてくる。その生き方はまさに感動の極致である。しかも単に感銘を与えてくれるだけではなく、具体的な戦い方をも教えてくれる。極限状況において、悪戦苦闘の末、その難所を切り抜けるという経験を知ることが、強い自己の形成に役立ち、人間に筋金を通すことになるのである。」そして10人の事例を挙げ、その中の5人は精神や肉体における何らかの障害と戦った人々の記録であり、特に内面的な戦いが中心となっている。

以上のことをフレームで描くとすれば、横軸に戦う対象として「自分」、「他者」、「社会・文化」をとり、縦軸にベクトルとして「強さ」、「方向性」をとる一つの表ができる。これに時間的変化を加えると、 T_1 から T_n に至る n 個の表ができ、さらに影響要因を記述することができる。事例ごとに上記のフレームを描き、分析することも一つの方法であるが、ベクトルを構成する「強さ」と「方向性」をどのように捉えるかは文献研究の制約上、困難度が高い。

戦う対象として「自分」、「他者」、「社会・文化」が設定

* 東海大学 健康科学部 社会福祉学科

できると同様に、戦う主体としての「自分」が存在し、その在り方が上記の生き方を左右する大きな要因であると考え。本研究は当事者のもつビリーフ (Belief) に着目し、自分の内外と戦う原動力と考え、その分析を試みるものである。

II 方 法

人の考え方の中核にはビリーフがある。このビリーフの在り方が、人間の幸せな生き方を左右する基本的な条件となるという考え方にに基づき、人々に感動を与え、ベストセラーになった自叙伝(中村、1987)の分析をREBT(理性感情行動療法、論理療法などの訳がある)の立場から行う。

1. 分析対象

久子の自伝である「こころの手足」(中村、1987)は二部構成になっている。年代順に記述された第一部を分析対象とした。

著者の略歴

明治30年岐阜県高山市に生まれる。3歳の時、足の霜焼けがもとで突発性脱疽となり、両手両足を失う。5歳の時、弟栄三生まれる。7歳の夏、父他界する。8歳の秋母再婚し、10歳の春、弟栄三育児院へ送られ生別。大正5年見世物小屋に売られ、高山を出る。名古屋で「だるま娘」の看板で見世物芸人の生活が始まる。大正9年弟、母相次いで死す。大正10年中谷雄三と結婚、翌年長女美智子生まれる。大正12年、祖母、夫雄三相次いで逝く。大正12年進士由太と結婚、翌年次女富子生まれる。大正14年夫と死別。大正15年、定兼俊夫と結婚、昭和2年三女妙子生まれるも翌年死別。昭和8年離婚。昭和9年、中村敏雄と結婚。昭和12年東京にてヘレン・ケラー女史と会見、口で縫った日本人形を送る。昭和17年、津市の興行を最後に見世物芸人の生活と訣別する。以後、講演が多くなり、婦人会、刑務所等を巡る。昭和36年、身体障害者の代表として天皇陛下に拝謁を賜る。昭和37年、NHKラジオの「人生読本」で「御恩」と題して放送。昭和43年、72歳にて永眠。

2. REBTの基本的な考え方(橋口、1996)

REBT (Rational Emotive Behavior Therapy) (理性感情行動療法、論理療法などの訳がある)は最近、提唱者であるエリスの翻訳が相次いで出され、注目されている心理療法である。エリスは、REBTと従来の心理療法との違いをアルファベットのABCDEを用いて極め

て明快かつ論理的に説明しようとする。ここでAとは、その人にとっての大きな出来事や経験 (Activating event or experience) を意味し、Bはその人が強く思い込んでいること、つまりその人の持つ信念体系 (Belief System) を意味する。またCは、落ち込むなど何か問題が起こっているとすればその結果 (Consequence) を意味する。Cすなわち現在落ち込んだり、不適応に陥っている真の原因はAすなわち過去の出来事や経験にあるのではなく、Bつまり本人が今は一体何を信じ込んでいるか、彼の信念体系そのものが元凶であると考えるのである。人間の行動の基盤には、その人それぞれの信念がさまざまな形で存在する。その信念には2通りある。一つは理性的な信念 rB (rational Belief) であり、他は非理性的な信念 iB (irrational Belief) で、不適応的な現在のCを起こした本当の原因は非理性的な間違った信念 iBにあるというわけである。

REBTでは(橋口、2002)、落ち込んでいる人がいれば、不合理で非理性的な信念 iB をまず明らかにし、それに徹底的に反論して粉碎する。D (Discriminant and Dispute) そして、それに代わるより幸せに生きることのできる合理的で理性的な信念 rB をしっかりと身に付けさせ、最終的には将来とも似たような場面におつかっても自分で iB を発見し、反論して正しい rB が導き出せるような自己コントロール力を養成する。これがE、つまり効果 (Effect) である。

3. 分析方法

ABCDEの中Dは伝記上に表出され難いので、ABCに限定して対象の範囲から該当する部分を抽出した。苛酷な境遇の中にも喜びや感動、感謝を表す箇所もあり、Cの記述は落ち込みを表すとは限らない。また、ABCは一連の流れの中に表出された文章からの抽出であるため、ABCの順に記述されているとは限らない。これに加えてREBTのB (Behaviour) を表す部分を Bh, BhもしくはB (Belief) に影響を与えた記述を Inf (Influence) と表した。

4. 調査期間

2002年12月～2003年2月

III 結果および考察

1. 「こころの手足」の分析

本研究目的に該当する部分をA、Bが表れている箇所を中心に抽出すると、以下の25箇所が得られた。抽出の

基準はAおよびBまたはBhが含まれていることとした。すでに記したように、Cは落ち込みを表すとは限らない。悲しみの中にも健康で強い意志を表す場面が多い。

1) A 一夜のうちに両眼とも光の世界を全く失ってしまったのです。失明して半年後、祖母が医師に連れて行き、徐々に回復していきました。そして光の世界によみがえることができました。P23/11-P29/11

Bh それからの私には、独創と努力の世界が展開されたのです。P29/17

Inf 母が慈愛にあふれたしつけを施さなかったら、独創も努力も生まれて来なかっただろうと思います。P30/1

2) A 梅雨の明ける頃になると、冬の間着汚した衣類が仕立て替えされますので、母はほどき物を言いつけます。袖口、袖付、襟先などの固い留糸は足では切れないので母に切って下さいと頼むのですが、自分で考えて切りなさい、と母は言い捨てて、たくさんほどき物を当てがって知らぬ顔をしています。

とうとう考えて口ではさみを使って固い留糸が切れるようになりました。一人でほどき物ができる、これは大きな歓喜であり、一つの発見でもありました。P30/2-7

Bh 女の子はお針が一番大事じゃでなァー、何とかしてあんたも針が持てたらええになァー、という母の言葉に私の心は奮い立ちました。P30/8-9

3) A つばだらけのべたべたした物を仕上げて、近所の友だちに人形の着物を縫ってあげたのです。ところがその家の母親は、こんな汚い物をもらってはなりません、と小川に捨てられました。P31/13-16

C このことをほど経てから聞いた私は、初めて自分には手がないことをはっきり意識したのです。汚いと捨てられたこのことが頭の中から離れる時がありません。足で針を持つことを考えましたが、針をもつ指が無い、その時、自分には手も足も無いのだ、と強く感じられ、目の前が真っ暗になり泣きました。P31/16-32/5

B 恐る恐るまた針を口にしましたが、頭の中にひらめくことは、つばだらけにしてはいけない、ぬらさぬように、と悲壮なまでの念願でした。「捨てられた」ことが、努力の上に独創の三昧境に得難い試金石となったのは大きな感謝です。P32/8-10

4) A 「箸持たんで御飯食べる者はなァー、犬や猫とひとつじゃぜなァー」と店の小僧達に笑われた時、ハッとしたのです。P33/5-6

B 悲しそうな母の姿を見た刹那、手が無くとも、足が無くとも、自分は犬や猫ではない、人間なのだ。きつと箸を持って御飯を食べて見せる。火のような信念と半

ば反抗心が子供心にも燃えさかり、とうとう箸も茶碗も短い腕に支えられるようになりました。P33/6-9

5) A、Inf 祖母は私を不具の子としての特別扱いをせず、来客に対する礼儀をはじめ日常のすべてに厳格なしつけをするようになりましたので、この点、来客の前に出ることさえ一切禁じていた義父の家と比べて、祖母のこの明朗な教育方針は私を精神的にどんなに伸ばしてくれたことか知れません。桃の節句には粗末なおひな様を飾り付け、お友達とお配りごっこもさせられました。ともすれば不具ゆえにひがみ易い私をどれほどすなおに、そして、静かに育ててくれたことか知れません。細い小さなランプの下で、こたつに入って針の手を動かしながら、真宗の信者の祖母が、おとぎ話のように仏様の話を面白くしましたのも忘れられないことです。P39/7-P40/2

6) A 母は苦しさを抑えかねて、つい口に出すこともありました。「死んだらええのに、死にたい」P42/15-16

C 四六時中、頭の中を去来するものは、死のみでした。P42/17-P43/1

B、Bh その頃でも生活困窮者や不自由者には最低生活が保証されていたので、適用をと考えましたが、町のためには何一つとして役に立ったことのない自分が、お金を頂くことはもったいない、手足が無くても生きている以上は自分で働いて生き抜こう、と決心しました。「運命は自ら開拓す」何かで読んだことを思い出しました。環境が冷たくなればなるほど、自ら生き抜く精神は火のように燃えさかり、私は、一心に縫物に打ち込むのでした。P43/4-10

7) A 亡父の親友の小父さんが、見世物小屋で働いて小金をためて、小店を出して暮らせば老後は親戚の世話にならずとも生きて行ける、と忠告した。昼も夜も考えた。P43/12-P44/2

B どんなに苦しい目をして、見世物芸人にはならない、亡くなられた父に申し訳がないから、と今までも考えていたことです。見世物に堕ちてはいけない、自尊心を失うな、とつよく叫ぶ。生きなければならぬ現実の問題に、何をぐずぐずしているのかと別の心は叱責します。P44/9-16

8) A K氏は子分のS氏に私たちの一座を渡したのです。私の身を心配して小父さんが付けてくれたNは泣いて口惜しがりましたが、Sに従うよりほか仕方がなかったのです。P56/1-5

C あまりに辛くて、他の興行師の手に行くべく電車の駅まで行ったものの、Sにすぐ捕えられました。その後、一層厳しくされたので警察へ、と考えたことも一度

や二度ではなかったのです。P56/6-8

B 一年前に家を出る時は死をさえ覚悟した自分ではなかったか、いくら厳しいといったところで、まさか殺されはしないだろう。今こそこの一座で辛抱しよう。人間は与えられた苦難にどの程度まで打ち克って行くことができ得るものか、自分の精神力を試して行こうと固く決心しました。P56/11-15

9) A 息のつまるような苦境にいても、いつも私の心を暖かく包み、そして光を添えてくれたのはY青年でした。P57/11-12

B どんな厳しい生活にも心の束縛はされていないことに目を向けると、そこに新しい世界が展開されて行くのをおぼえます。意中の人を偲ぶ時、全く生命の躍動される光と歓喜に包まれているのを感謝せずにはおれません。幸いなるかな、障害を受けし者、肉体を克服なし得るところの偉大なる“魂の力”を天より与えられている、そがためなり。P57/16-P58/3

10) A 「不具者のくせに久ちゃんは生意気だよ、こむずかしい本ばかり読んでさ」座員の陰口に涙しつつ、生きていかねばならぬしがない旅芸人。P68/11-12

C 寂しいものが、どんな時でも心の奥底で目をさましています。P68/12-13

B 「郷に入ったら郷に従え」で行くよりほかに仕方がない。P68/15

C 手が無くてもできるものと考えついたのは大正琴です。弾くどころか三本の調子も合わせられず、やめてしまいました。その頃、青年芸人のMさんが私に口を使わない芸を教えてくださいました。P68/17-P69/7

11) A 周囲の人たちが演ずる芸、いわゆる「商売の仕事」は昔習ったそのままを演じています。P71/6

C、Bh 私はこの人たちと同じ単純な気持ちではいられなくなっていました。ただ習った芸を演じているだけでは空しい、そのような自分の心をどうすることもできず、わずかな読書と裁縫を唯一の魂の道標として励みました。P71/7-12

B しがない障害者が演ずる拙い芸も、その「芸の精神」においては何ら異なるところはないはずです。少しでも会得したものを観客の前に公開し捧げ得ることが、私には喜びであり幸福でもありました。P71/9-13

12) A 母の訃報、お母様もとうとうお亡くなりになりました。P73/14-15

B 子として自分ほどの不孝者があるだろうか、申訳のない私でした。四肢なき子連れて貧苦の中に世の人の冷笑を浴びつつも、ようこそ育てて下さいました。P73/15-P74/1

Bh 母様のご苦勞を深く思い、ひさは、きつとつよく正しく生き抜いて行きます。P74/1-2

13) A 「右足を少し切断すれば義足は付けられる」整形外科の大家、T博士は確言しました。手術後、主治医のH先生について仮義足をはくけい古をさせられました。P77/2-5

Bh 歩きたい、大地に起ちたい一念で、起つことに専心努力しました。歓喜と幸福に朝もゆっくりベッドにおられず起つことに一心でした。P77/15-78/1

B 買物が自分でできる、嬉しいというより、不思議な思いがしました。物が買えるという想像のつかない歓びに満ちた生活が与えられたことも、四肢障害者のみが受ける尊い、そして深い恩寵だと思いました。最も深く思わされたことは、障害をむしろむむものは障害ではなく、自らの精神によるものであるということです。P79/6-16

14) A 巡業中、夫が弱って行き、床に就く日が多くなりました。そして夫は不用の者、芸人である私だけが必要だったことが露出されました。P84/13-15

C 情けないやら腹が立つやらあらゆる感情が短気な私を一層に駆り立てます。P84/15-16

B、Bh けれど、感情に迷う時ではない。何よりも夫の体を善処して、どんなことがあろうとも病気を治すのが最大目的なのだ。幾日も幾夜も考え続け、親子乞食をしてもここを去るべきだという結論を出しました。P84/17-P85/2

15) A 初興行に出かける間際、足もとによろめいて倒れた夫は、再び起つのが不可能な状態に陥ったのです。医師に診てもらったところ、腸結核で絶望的な宣告に言葉もありません。P86/15-P87/2

C なぜもっと早く出て来なかったかという後悔の念は胸の中に湧き上がるも、還らぬぐちです。P87/2

B 男が男に頼まれた約束を立派に立て通してくれた人だ、最後まで全力を尽くすのは当然であり、せめてもの恩返しであり、妻として私の生命なのだ。P87/9-10

Bh 悲しみにのみ打ちひしがれてはおられない自らの境遇に、涙をかくして起ち上がりました。P87/11-12
16) A 義父よりの電報。祖母は半身不随で、口も全然利かれず、私をみつめてただ涙を流すばかりでした。予期した以上に、親戚のおもだった人々は冷たかったのです。「家は旅館でないから他所へ行って泊ってくれ」と言われました。P87/16-P88/12

C これが血肉を分けた人の言葉なのか、悲しみに返事もできないのです。もう自分には甘える人も、すがって泣く人もいないのだ、冷たいのが当然なのだ、われとわが心に言いきかせつつも、やっぱり泣きました。P88/

14-16

Bh せめて菩提寺で父母や弟にお経を上げて頂こう。火のように燃えさかる自らの心の炎を消してほしい、せめてお寺にお詣りさせて頂いているその間だけでも。

P88/16-P89/1

17) A 夫も他界し、お葬式が営まれた後、S興行事務所で、私を使用すべく苦肉の策がめぐらせてあったのです。「一年だけ働いてもらいたいのです。お子さんは私が預かって育てます。」P99/9-15

C 親切の裏には、こうした否応言わさぬ義理と情のしがらみがあったのだ。恩も義理もある。けれど、一個の芸人として人に使用されたら、一年や二年どころか、一生涯子供までも自由を拘束されてしまう。P100/2-6

B、Bh どんな貧しい生活をして、自由だけは失いたくない。しかし、興行以外に生きる道のない自分は義理知らずにはなりたくない。日夜考え通しました。「恩も義理もお返しせずに出るのは、申し訳のないことですが、Iを出る時に誓った言葉を無にするわけには行きません。主人も亡くなって未だ日も浅いことゆえ、仰せに従うことは致しかねます。」きっぱりと断りました。P100/7-P101/1

18) A 「不自由な体で子供を抱えて、旅から旅への興行は苦労が多すぎる。先のことも考えておかねばなるまい。Sはわしの見込んだ男だ。あの人なら、親子を引き受けてやって行くだらう。」義兄の真心こめた言葉でした。P101/10-15

C 母のわだちを同じに踏まねばならぬとは何と情けない宿命だろう。P102/2

B でも自分は母なんだもの、そうだ、母を全うするためには艱難を克服して行かねば。P102/2-3

19) A 横浜で小さな家を借り、そのうちに富子が生まれました。しかし、天はどこまで試練を与え給うのか、じきに夫は病死してしまいました。P103/6-P105/10

C 二人の子供をどうして育てようか。なぜ自分だけ生きているのだろう。生き残される者は逝く人よりも、もっと苦しみと悲しみを受けなければならないことを痛感させられました。P105/16-P106/2

Inf、Bh 「悲しいにちがひありませんし、途方に暮れておられるのももっともなことです。しかし、あなたの肩には二人のお子育てる重い責任がかかっているのですよ。気をしっかり持って下さい。気晴らしに少しの間、私の小屋で働いてみませんか。」血も涙もあるY親分の言葉にむせび泣きました。P106/8-12

20) A 伸びて行く子らのために、今こそ一定の住居が欲しく、毎日のように出歩き探したが、無かった。P106/

15-17

C 世をのろい恨む気持ちも、出て来ました。そして手足の無いことに腹が立ってしょうがないのです。

P107/5-6

B 母子三人の餓死する姿さえ想像する時、手足の立派にある子供を餓死させてはならない、人に嫌われ、そのうえ貧しさに苦しみながらも、お前の親は手足の無い子を育ててくれたではないか。子供の亡き父に対しても申訳のないことだと思わぬか。心の奥で、強い声が、私の消え入りそうな魂を呼び戻します。P107/8-11

21) A 慕われも慕いもせぬ父と娘。仮の親子の姿を見るたびに、このまま過ごすのは恐ろしいこと、子を連れて旅するのは是か、非か、どれほど考え苦しんだことでしょう。P114/1-4

C 冷酒のコップの数も次第に重なり、ともすれば理性さえもかき消されそうです。P114/5

B いつの時代にも生きることは母にも子にも厳しいさだめです。そのさだめにさえぎられず乗り越えて行くところにこそ、人間としての真の尊さ、偉大さもあるのではないのでしょうか。P114/12-13

22) A 伴奏につれて、おどっている可愛らしい一年生、その中にわが子の姿を見出した時、わけもなく熱い涙が頬を流れました。そして、まぶたに浮かんだのは、亡き母のおもかげ。母はわが子、私の入学姿も楽しい運動会の姿も見er日は無かった。それなのに私は、自分は四肢無き体でありながらも四肢完全なわが子が与えられている、そのお陰で晴れの姿を見ることができた。P118/16-P119/3

B 思えば母にはこのような喜びに満ちた日は一生を通じて無かったのだ。母に与えたものは悲しみと苦しみだけ、親不孝な私でした。感激とごんげに泣きました。手足のある子を育てさせて頂いているもったいなさ。子が教えてくれた親の御恩、しみじみと味わわれました。子は親の心を支えてくれる尊い杖なのです。P119/3-7

23) A その頃、障害者には何らの社会福祉の面は無く、「見世物芸人」と世の人から冷たい目で見られても、罵られても、忍んで行かねばなりません。このままでよいのか、自ら問い、自らを責めた結果、もっと真剣に命がけで仕事に当る覚悟をしました。それには生活を切替え、新しくすることが肝要です。観客の暖かい理解と同情は受けても、おさい銭式の投銭は一切お返しして受けませんでした。P119/12-P121/9

B しかし、お客様には真心こめた笑顔で接すること、それが私の信念でした。夫の放蕩が激しければ一層、自らの演技に魂を打ち込んで行くことができました。そし

て毎日の生活と小屋は別であってはいらない。一体のもの、一如の相で行かなければ真の芸人ではない、という自覚が少しづつ深まって行きました。P121/10-14

24) A 前年の秋頃より手足、右腕の断端が痛み出して治療を要することになりました。昭和十七年、正月興行は三重県津市で開演しましたが、この場所が最終となったのです。病床にあって、今までしていた仕事を熱心に再検討しました。義足も足に合わなくなり、歩くことは不能の状態になったのです。

長女が男児の母となりました。孫のできた今日、子女のためにも、旅がらすの生活は見切りをつけねばならぬ。無理のないやめ方をしたい、ただその念願のみでした。P139/1-P140/11

C 通学させている間は学資のために働かねばならなかったが、娘が卒業した今、手足も短くなって仕事に不自由を来している今、それでもまだ興行に出なければならぬのか。

どうにか学校も出て就職はしかけたが、芸人で不具の母が所定めず旅にのみいるということは、うら若い青春の乙女の胸に、と思うと居ても立ってもいられない思いです。P140/6-P141/4

B 子によって支えられ生かされてきた私、二人の娘が、母の私の全生命なのでした。子供達は行く手を照らしてくれた正しい愛の光でもありました。子女が無かったら、大酒家で女としてあるまじき横道に陥っていたであろう自分を思う時、子を持って知る子の恩を深く味わわせられましたことは、ただ感謝あるのみです。P141/4-8

Bh そして再び小屋の座に就かぬ決心をしました。P141/14

25) A やがて私は、ご招待を受けて各地へ講演に旅することが多くなりましたが、そのような時、富子は私を背負い、乗車します。「お暑いのに大きな方をおんぶしておえらいですね。お母さんですか、なかなかできぬことです。感心しました。」と言われた。P143/2-7

Inf 夢からさめたように、人様の言葉にあらためて子の恩を教えられました。御縁のままに娘の手足を体を心を勝手に使っていたことに気づかせられたのです。美智子の結婚の時にちゃんと心の整理がついているはずなのに、手伝ってもらうのをいいことにして使っていたのは申訳のないことでした。P143/8-11

B 親なるがゆえに、若い人の持つ美しい夢を破ってはならぬ。理想の道に歩ませることは、せめてもの子に対する親としての報恩ではなからうか。P143/11-12

Inf 振り返ってみますと、天幕生活、満二十二年、こ

の間は私にとって決して短い時ではありませんでした。けれど人の世のあらゆるものを一杯に受けました。正邪のけじめの厳しいやくざ渡世の興行人、一般社会人よりももっと真紅のたぎる血潮に燃えているあの社会の人たちと暮らし、汲めどもつきない美しい人々の真心、暖かい親切にふれました。ああした社会があったお陰で不具だとしてひけ目もひがみも少なく人間として生きて来ることができました。P143/16-P144/4

B ある人が私に、「もう人間としてあなたは完成した人だ」と言われましたが、完成どころか未完成もはなはだしい人間なのです。長寿を全うしたとしても、魂の上での私は、おそらく一生未完成品なのです。P145/16-P146/3

2. ビリーフ (B) および行動 (Bh) を中心とした考察

25項目の中で、特に特徴が顕著に表れている項目についてみていく。

2) 「何とかして針が持てたらええになあーという母の言葉に私の心は奮い立ちました。」母の言葉に自分の気持ち合致して行動に移せた。

3) 「目の前が真暗になり泣きました」は自然の心情であり、「ぬらさぬようにと悲壮なまでの念願でした」は目的に向かう健康な rB であると考えられる。捨てられたことを大きな感謝と受止めているところに健康な精神がうかがえる。

4) 「自分は犬や猫ではない、人間なのだ。火のような信念と半ば反抗心が子供心にも燃えさかり……」母の心情を察し、自分は人間なのだという rB が湧き上がった。

6) 「頭の中を去来するものは、死のみでした」死しかないと思いつめたのは iB であろうが、「手足が無くても生きている以上は自分で働いて生き抜こうと決心」し、生命力の強さが表れている。

7) 「見世物芸人に堕ちてはいけない」という父の信念と、生きなければならぬ現実との葛藤に悩むのは自然の心情と考えられる。

8) 「人間は与えられた苦難にどの程度まで打ち克って行くことができ得るものか、自分の精神力を試して行こうと固く決心しました」は Bh で、死をさえ覚悟した自分を思い起こし、与えられた苦難に耐え得るかを試行しようとする健全で力強い rB と考えられる。

9) 「心の束縛はされていないことに目を向けると、新しい世界が展開され、障害を受けし者、肉体を克服なし得る偉大なる魂の力を天より与えられている」感謝の気持ちと共に rB を感じ取ることができる。

11) 「しがない障害者が演ずる拙い芸も、「芸の精神」に

においては異ならない。少しでも会得したものを観客の前に公開し捧げ得ることが、私には喜びであり幸福でもありました」芸の精神を捧げることの喜びと幸福が健康なrBとして示されている。

12)「子として自分ほどの不孝者があるだろうか、世の人の冷笑を浴びつつも、ようこそ育ててくださいました」「母様のご苦勞を深く思い、ひさは、きつとつよく正しく生き抜いて行きます」「自分ほどの不孝者があるだろうか」、は自省心が強すぎるかも知れないが、母への深い感謝心との対比で生じているとも受け取れ、感謝に満ちたrBであり、同時に生き抜く決意をBhとして示している。

13)「想像のつかない歓びに満ちた生活が与えられたことも、尊い、そして深い恩寵だと思いました。最も深く思われたことは、障害をむしろむものは障害ではなく、自らの精神によるものであるということです」深い恩寵が与えられているというビリーフと、障害をむしろむものに対するビリーフが明確に語られている。

17)「どんな貧しい生活をして、自由だけは失いたくない。しかし、興行以外に生きる道のない自分は義理知らずになりたくない。考え通した結果、きっぱりと断りました」自由と義理の葛藤に悩むが、一生涯のことを考えてrBである自由を選んでいる。

18)「何と情けない宿命だろう」と嘆くが、「自分は母なんだもの、母を全うするためには艱難を克服して行かねば」と力強いrBが発揮されている。

20)「手足の立派にある子供を餓死させてはならない、お前の親は手足の無い子を育ててくれたではないか。心の奥で、強い声が、私の消え入りそうな魂を呼び戻します」苦難の続く中でも、親への感謝と自分の使命感がrBとして支えになっている。

21)「冷酒のコップの数も次第に重なり、ともすれば理性さえもかき消されそうです」「生きることは厳しいさだめです。そのさだめにさえぎられず乗り越えて行くところにこそ、人間としての真の尊さ、偉大さもあるのではないのでしょうか」病的なレベルではないCの記述にも拘らず、真の尊さをrBとして持っている。

22)「手足のある子を育てさせて頂いているもったいなさ。子が教えてくれた親の御恩、しみじみと味わわれました。子は親の心を支えてくれる尊い杖なのです」ここにも親と子供に対する感謝の気持ちがあふれ出ている。

23)「毎日の生活と小屋は別であってはいらない。一体のもの、一如の相で行かなければ真の芸人ではない、という自覚が少しづつ深まって行きました」自らの演技に魂

を打ち込み、生活と小屋を一如の相として捉えるという境地に達してしている。

25)「ある人が私に、もう人間としてあなたは完成した人だと言われましたが、完成どころか未完成もはなはだしい人間なのです。魂の上での私はおそらく一生未成品なのです。」人間は人間であり、超人間ではない、間違いを犯し易い存在であるという代表的なrBを表している。

以上ビリーフおよび行動を中心に年代順に概観してきたが、記述に表れている箇所を見る限り、ほとんどのビリーフがrBであり、しかも人生の初期から一貫していることが特徴として言える。想像を絶する苦しみや悲しみに対して、その都度rBによって心の健康が堅持されている。同時にそれらがBhとなって随所に表れている。人形をつばでぬらさぬようにとの悲壮なまでの念願を持つことや、自分は人間なのだという半ば反抗心が燃えさかり、母の心情を察するなどの心の持ち方から、芸の精神を捧げることの喜びと幸福、尊く深い恩寵が与えられていること、障害をむしろむものは自らの精神によるものだという認識に変化して行く。そして、親と子供に対する深い感謝の念、芸においては生活と芸を一体化するという芸道の会得が認められる。つまり、人生の初期から一貫してみられるrBも、その内容は徐々に成熟したものに变化していくのである。

IV おわりに

四肢障害という苛酷な運命を背負い、明治・大正・昭和を生き抜いた人物の自叙伝をREBTの視点から分析し、その特徴を明らかにした。その生き難さを克服した中核にビリーフがあり、祖母や両親、夫や子供達、身近な知人達への報恩と感謝の気持ちが溢れ出ている。人生の初期から一貫して健康なrBを保持していることは、著者が特別な人物ではなく、健全な養育態度に恵まれれば誰でも困難を生き抜くビリーフを持ち得ることを示しているといえよう。ここに教育の重要性和人生の普遍性と希望を見出すことができる。

辻村(1993)が述べているように、「人間も動物も、一生動いていく限り、絶えざる戦いの連続である。そして外部の敵と激しく戦っていくことができるためには、強い自己というものが形成されていなければならない。そのためにはまた、内面的にも激しい『自分との戦い』がなければならないであろう。」冒頭で述べたフレームによる分析が可能であるか否かの検討は今後の課題である。

[付記]本文中に表現上不適切とみられる用語が使用されているが、原典を尊重してそのまま使わせて頂いた。

[謝辞]本稿の執筆に際し、御指導と御助言を頂きました
聖心女子大学教授・橋口英俊先生に深く感謝致します。

文 献

橋口英俊(1996) 希望の心理学 日本教育臨床研究会。

橋口英俊(2002)「ビリーフとカウンセリング－REBT
を中心に」。

『教育臨床心理研究』5.93-102。

中村久子(1987) こころの手足(新版) 春秋社。

辻村 明(1993) 自分と戦った人々 高木書房。4。

辻村 明(1993) 自分と戦った人々 高木書房。3 -
4。